

食品寄附等に関するDX分科会 第 1 回

「共通API等を用いた 地域単位での食品寄附 データ統合に向けた 調査・実証事業」 概要及びスケジュール

2024年 6月24日

1. 背景

- 現在、未利用食品等まだ食べられることができる食品が、製造・流通段階で約 **24 万トン**、家庭段階で約 **14 万トン**に及ぶという推計がある。
- これらの食品を必要とする者へ無償で提供することで、食品として再流通させることができれば、**食品ロスの削減に大きく貢献**することが期待される。
- 他方で、こうした食品の無償提供（食品寄附）に係るサプライチェーンについては、多種多様な主体に跨っており、食品寄附に係る食品の情報あるいは食品ニーズの情報が**細分化・分散化**し、適切な情報共有による**マッチング等が難しい**という課題がある。

2. 本事業の目的と取組内容

上述の背景を踏まえ、本事業では、以下の取組を実施することで、**寄附食品の適切な需給調整・食品寄附の促進を図る**ことを目的とする。

①レジストリの整備 【別添資料3-2参照】

分散している食品関係事業者、フードバンク、こども食堂等の基本情報（氏名、所在地等）を調査・収集し、適切なアクセス権限の下、オープンデータとして情報提供することを前提に国が管理するレジストリ（情報基盤）を整備する。

②共通API及び標準化ガイドラインの作成 【別添資料3-3参照】

寄附食品に関するデータを関係者の間で共有し、マッチング等が容易となるよう、データ連携を図るための共通APIを作成する。同時に、寄附食品データ標準化のためのガイドラインを作成することで、データの品質向上や仕様の標準化を図る。

③寄附食品データ連携のユースケース調査実証

モデル地域を2か所程度選定しユースケース調査実証を行う。

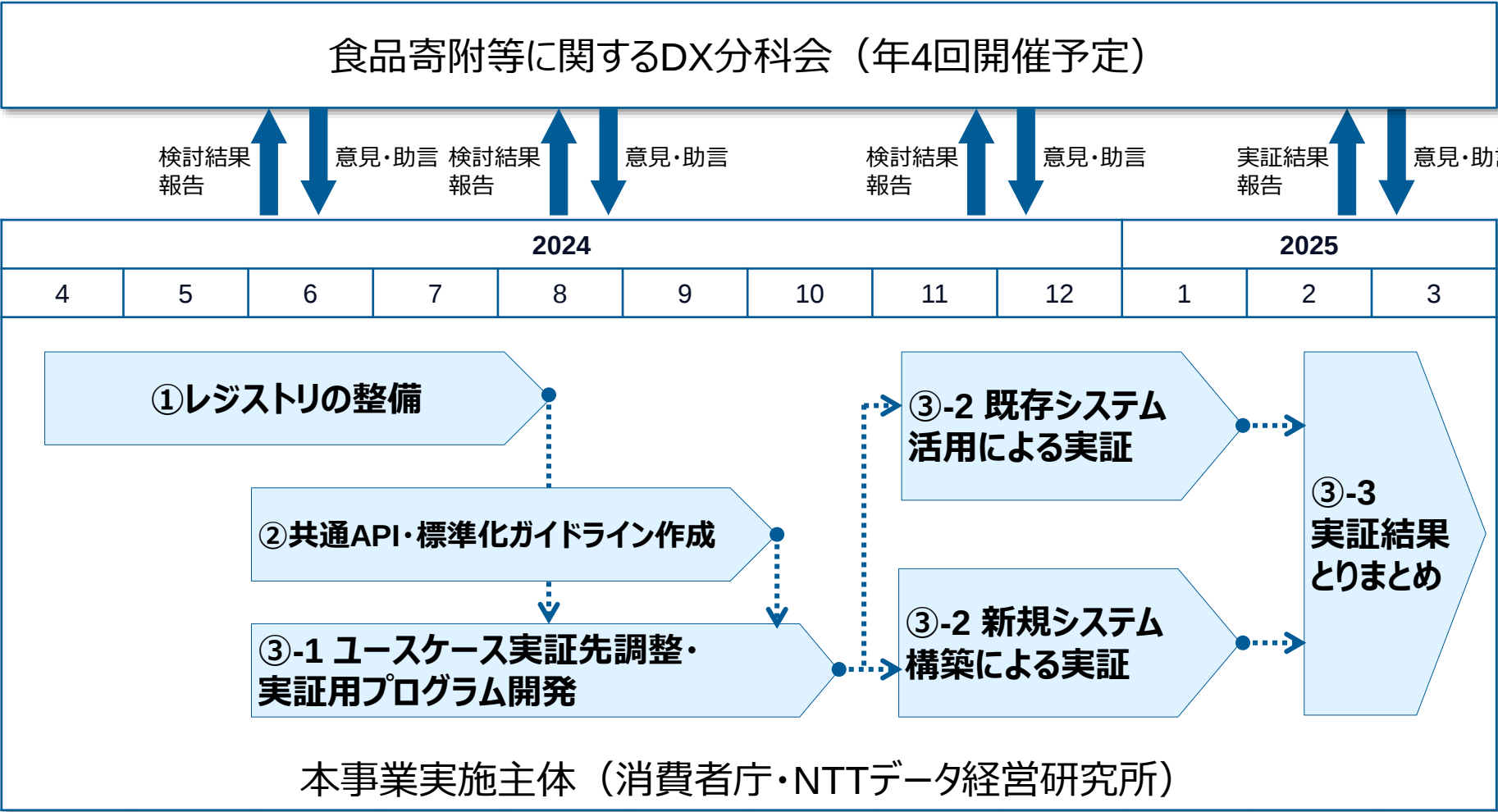
- **(1. 既存システム活用型)**既に各関係者がそれぞれシステムを導入している地域では、システム間で情報を連携するため、②で作成したAPIを用いて実証を行う。
- **(2. 新規システム構築型)**システムが導入されていない地域では、民間クラウドサービスを利用した食品寄附プラットフォームを構築することでデータ連携の実証を行う。

④食品寄附等に関するDX分科会の開催

上記①～③について、関係者や専門家の意見を聴きながら進めていくため、食品寄附等に関するDX分科会を開催する。

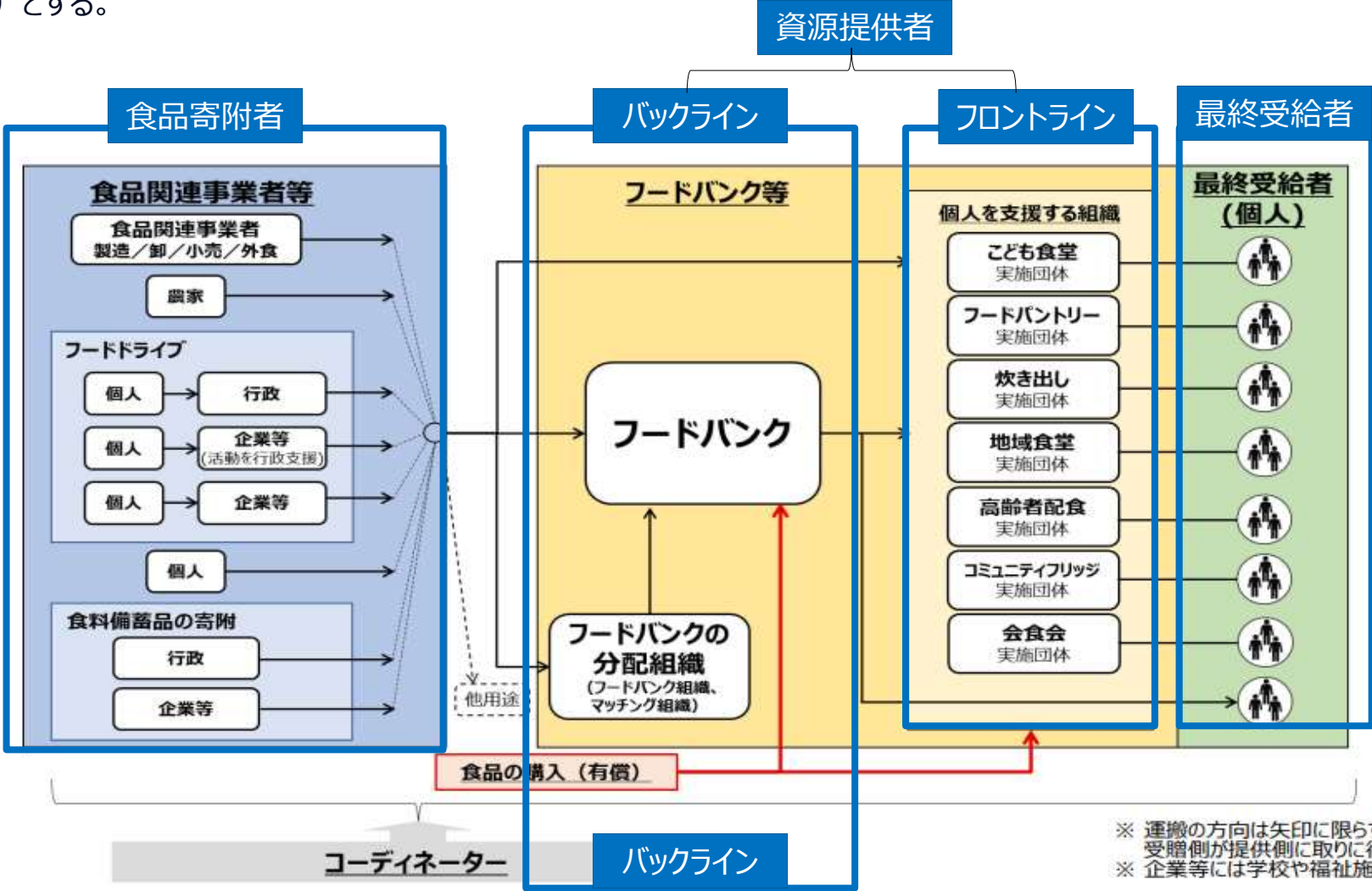
3. 本事業全体のスキーム

食品寄付等に関するDX分科会における関係者及び有識者等のご意見を踏まえ、前述の①②③による検討及び実証事業による検証を進める。



4. 食品寄附に係るサプライチェーン概略図と本事業における便宜上の分類

- 食品寄附に係るサプライチェーン概略図のうち、本事業では便宜上以下のとおり各主体を「食品寄附者」「バックライン」「フロントライン」「最終受給者」「資源提供者」の5つの分類に分けることとする。
- このうち、本事業の主な対象は「食品寄附者」「バックライン」「フロントライン」の3つ（可能であれば「資源提供者」を含めた4つ）とする。



5. 食品寄附に係る各主体の便宜的な定義

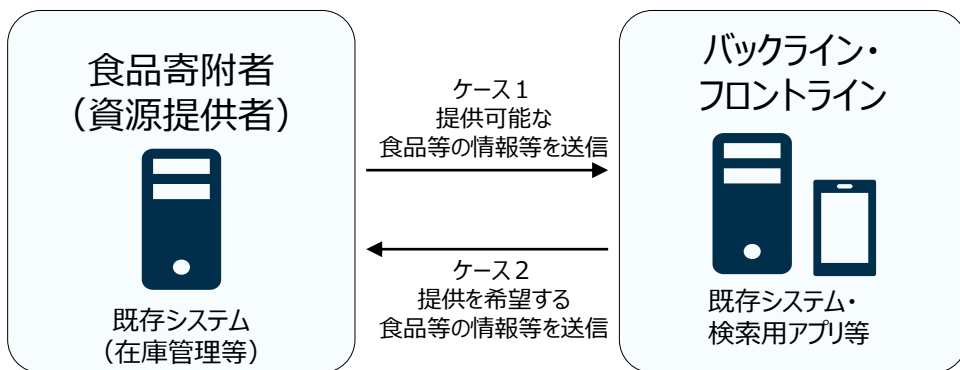
主体		概要
食品寄附者 (食品寄附を最初に行う者)	食品関連事業者等	製造業、卸売業、小売業、外食業等、事業として食品を扱う事業者や農林漁業者（団体含む。）
	企業	備蓄食品等の寄附を行う企業
	行政	備蓄食品等の寄附を行う行政主体
バックライン (寄附食品を食品寄附者からフロントラインに仲介する者・食品寄附者でもフロントラインでもない者)	コーディネイター	自らは保管・物流機能等を持たず（外注することあり）、専ら個々のフードバンクやフロントラインと食品寄附者のマッチングを行う者
	フードバンク	食品寄附者から寄附食品を引き取り、倉庫等に保管し、他のフードバンクや、こども食堂等フロントラインへ配布する団体（無料の卸売業的なもの・一次、二次等の階層もある。）
フロントライン (寄附食品を最終受益者に引き渡す者)	こども食堂等	寄附食品等を加工し、無料または安価で食事の提供を行う団体（無料または安価の飲食業的なもの）
	フードパントリー等	寄附食品等を拠点で無料配布、あるいは個別に配送する団体（無料の小売業的なもの）
資源提供者 (食品以外の資源を提供する者)	バックライン・フロントラインに対して、活動資金を提供する者、物流や倉庫・会場・広報・人手などのリソースを提供する者等	

6. 寄附食品データ連携のユースケース調査実証

< 1. 既存システム活用型 >

■ 概要

既に各関係者がそれぞれシステムを導入している地域において、システム間で情報を連携するため、本事業で作成したAPIを用いて実証を行う。



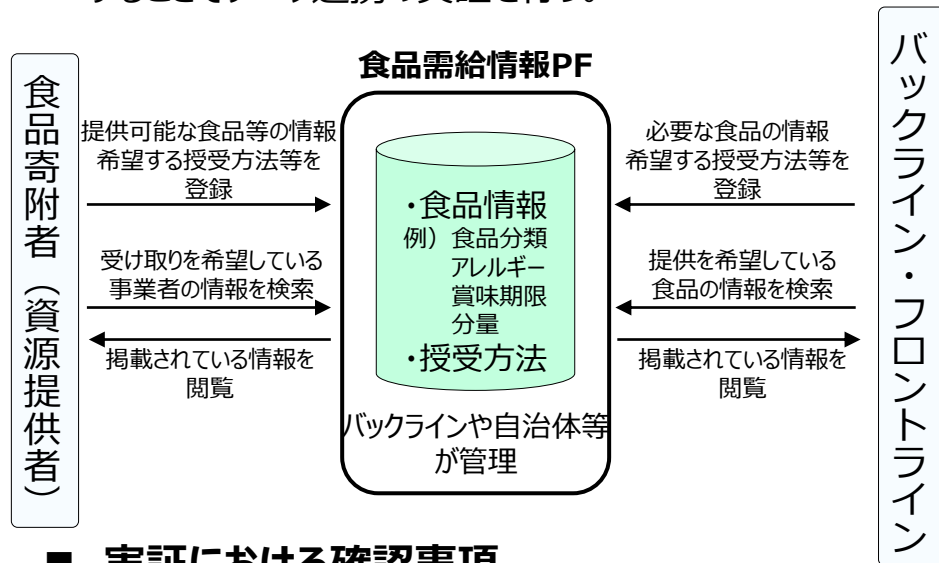
■ 実証における確認事項

- ・ 共通API等の組み込みにあたっての改修コスト
- ・ 各関係者の利便性等の運用上の課題
- ・ 共通API仕様書及び標準化ガイドラインの利用可能性

< 2. 新規システム構築型 >

■ 概要

各関係者がシステムを導入していない地域において、民間クラウドサービスを利用した食品寄附プラットフォームを構築することでデータ連携の実証を行う。

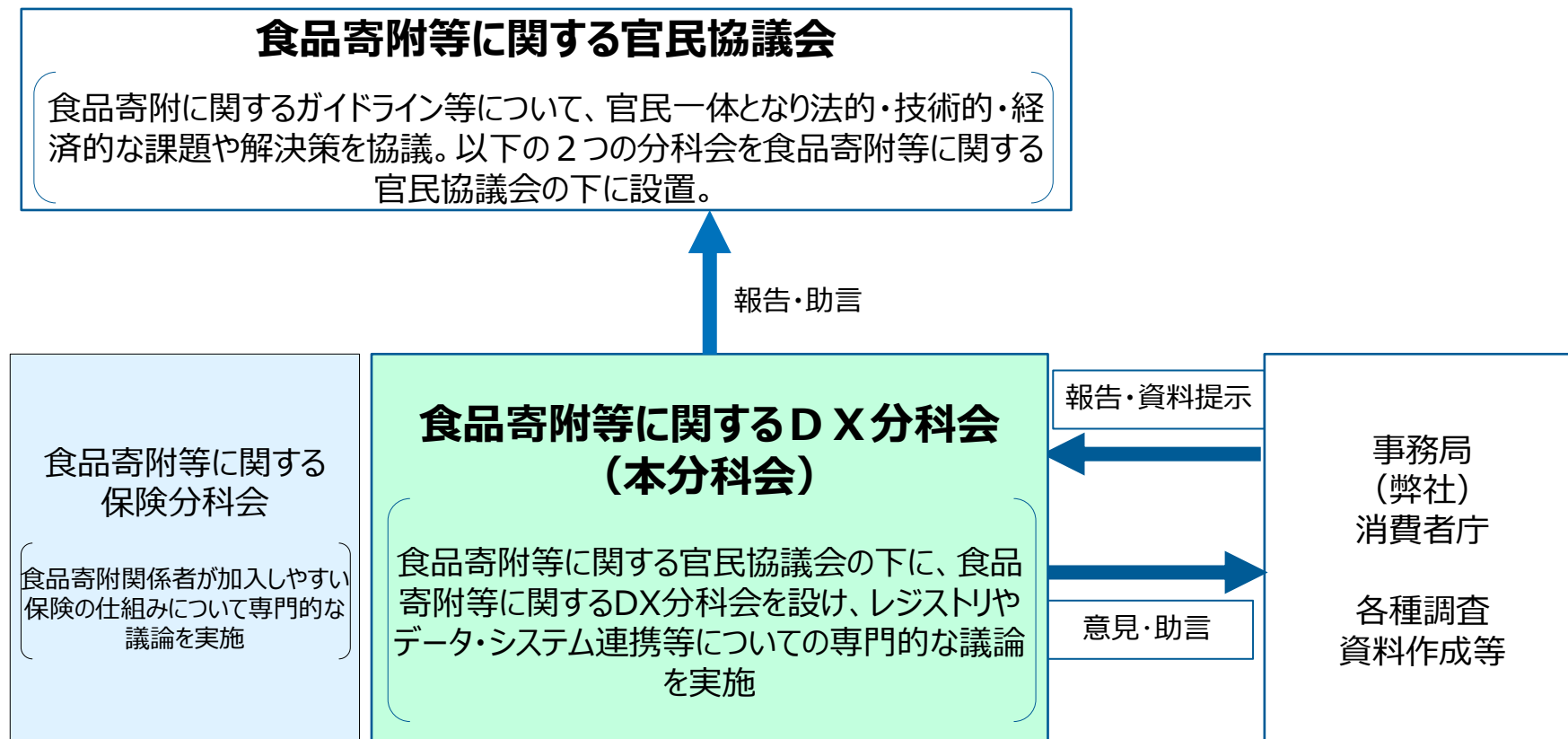


■ 実証における確認事項

- ・ 食品寄附プラットフォームの構築コスト・利用コスト
- ・ 各関係者の利便性等の運用上の課題
- ・ 共通API仕様書及び標準化ガイドラインの利用可能性

7. 食品寄附等に関するDX分科会について

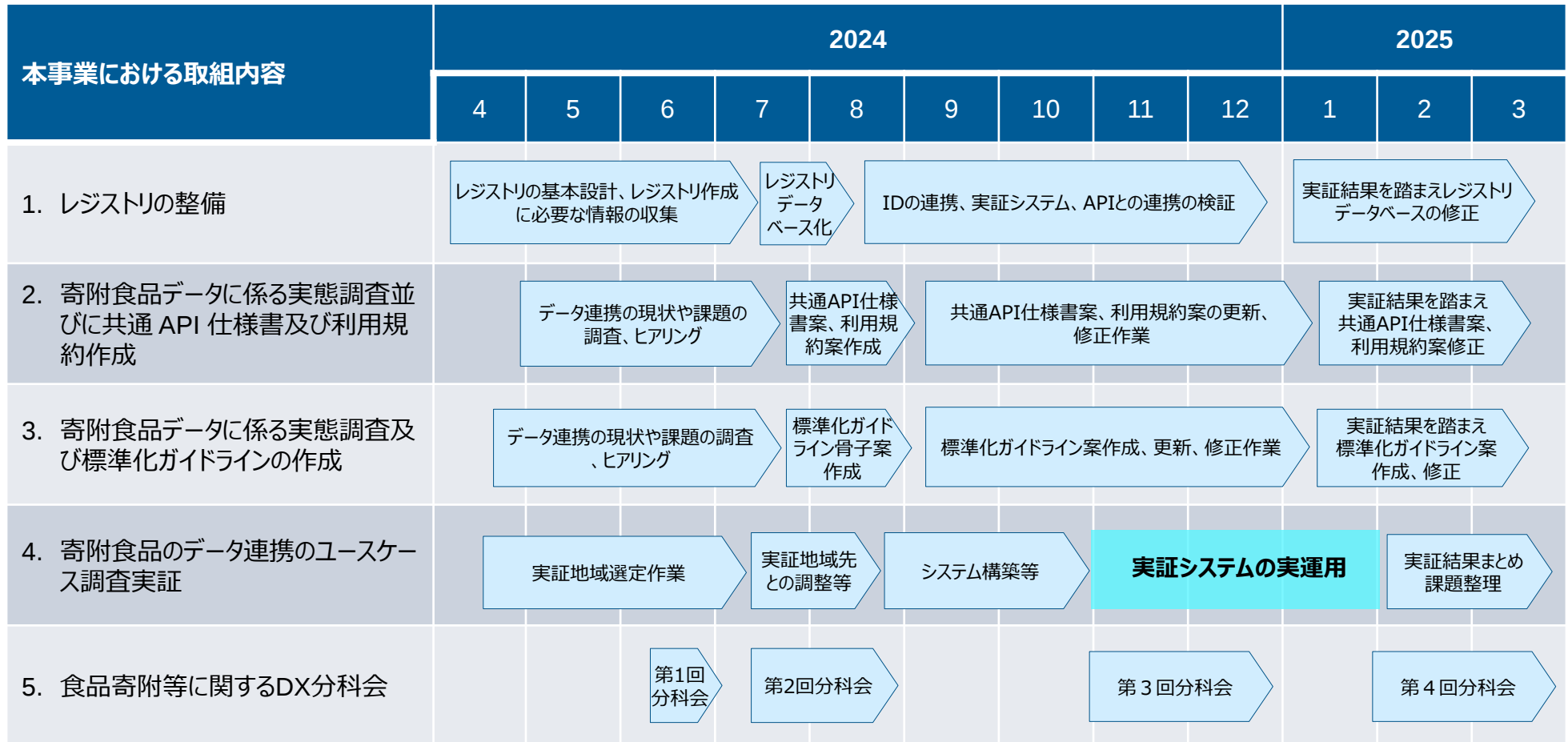
食品寄付等に関するDX分科会は、食品寄付等に関する官民協議会の元で、レジストリやシステム連携等の専門的な議論を実施する分科会として活動を行う。



8. 食品寄附等に関するDX分科会の開催時期と議題

回次	開催時期	議題（予定）
第1回	6月	・ 設置趣旨 ・ レジストリ作業結果報告及び論点整理 ・ 共通API及び標準化ガイドライン作成の際の論点整理
第2回	7月～8月	・ レジストリ作業結果、寄附食品データに係る実態調査結果 ・ 共通API 仕様書、利用規約、標準化ガイドラインの作成方針 ・ 実証調査の進め方
第3回	11月～12月	・ 共通API 仕様書（案）、利用規約（案）、標準化ガイドライン（案）の検討 ・ 実証調査の状況報告
第4回	2月～3月	・ 実証調査結果報告 ・ 共通API 仕様書（案）、利用規約（案）、標準化ガイドライン（案）取りまとめ ・ 全体最終とりまとめ

9. 本事業全体のスケジュール



(参考) 食品寄附DXにおいて抱える課題仮説 (DXでの対応が考えられるもの)

寄附事業者の抱える課題

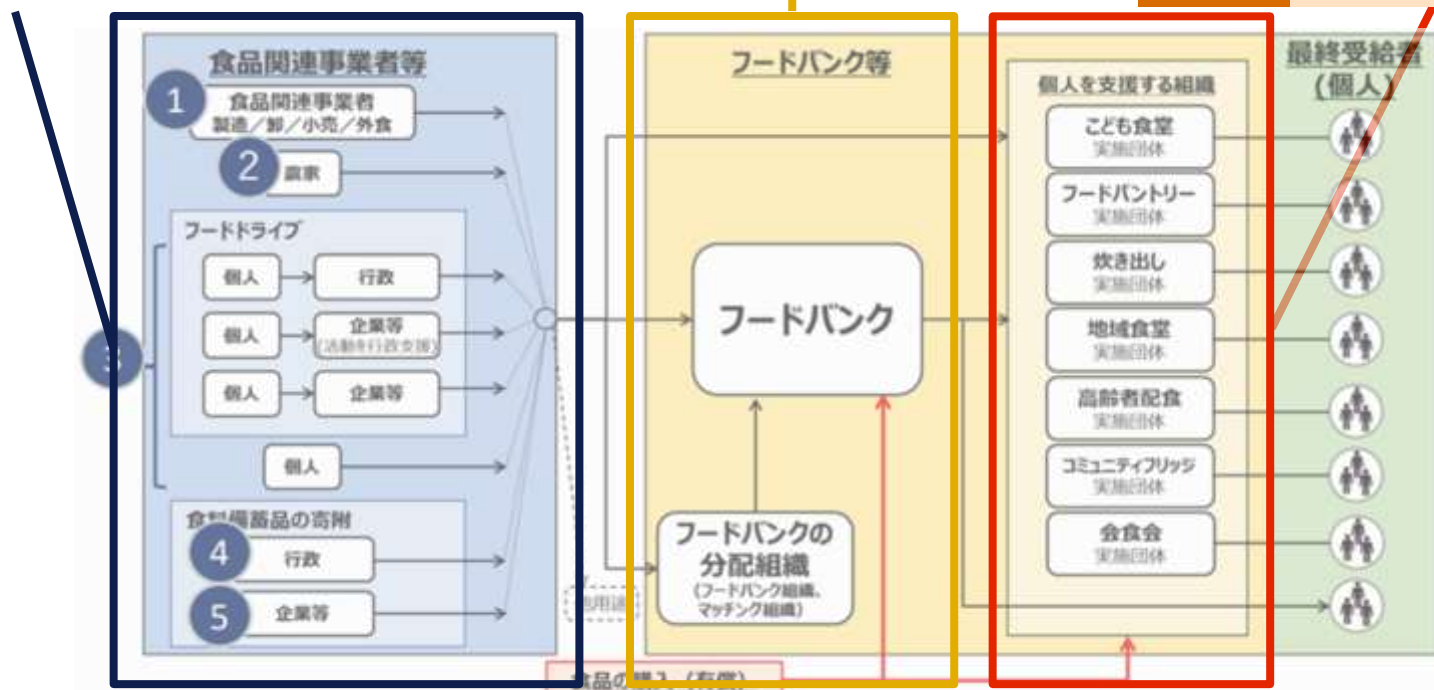
課題1-1	適切な寄附先を探す負担
課題1-2	食品の品目・量に応じて受け入れ先と個別に連絡・調整する負担
課題1-3	食品の適切な管理に手間が掛かる
課題1-4	社内の情報の出力、個別の物流コスト等の負担

バックラインの抱える課題

課題2-1	寄附事業者や資源提供者を探す負担
課題2-2	寄附事業者と個別に連絡・調整する負担
課題2-3	食品の適切な管理・報告に手間が掛かる
課題2-4	物流や倉庫等のキャパシティの限界による受け入れ困難

フロントラインの抱える課題

課題3-1	寄附事業者や資源提供者を探す負担
課題3-2	寄附事業者やバックラインと個別に連絡・調整する負担
課題3-3	食品の適切な管理・報告に手間が掛かる
課題3-4	物流や冷蔵設備等のキャパシティの限界による受け入れ困難



(参考) 本事業における取組内容と解決を目指す課題

本事業における取組内容		解決を目指す課題		
1. ベース・レジストリの整備 食品寄附関係者の基本情報を調査・収集し、適切なアクセス権限の下、オープンデータとして情報提供することを前提に情報基盤を整理	課題1-1	適切な寄附先を探す負担	課題2-1	寄附事業者や資源提供者を探す負担
	課題3-1	寄附事業者や資源提供者を探す負担		
2. 標準化ガイドラインの作成 食品寄附において関係者間でやり取りされるデータの形式等について、標準的な使用を検討しガイドラインに取りまとめる	課題1-2	食品の品目・量に応じて受け入れ先と個別に連絡・調整する負担	課題1-3	食品の適切な管理に手間が掛かる
	課題1-4	社内の情報の出力、個別の物流コスト等の負担		
3. 共通API仕様書・利用規約策定 地域の食品寄附関係者間で寄付者・受入者や寄附食品の情報、ニーズ情報を授受できるようなAPIの仕様を検討し、仕様書・利用規約を策定	課題2-2	寄附事業者と個別に連絡・調整する負担	課題2-3	食品の適切な管理・報告に手間が掛かる
	課題3-2	寄附事業者やバックラインと個別に連絡・調整する負担	課題3-3	食品の適切な管理・報告に手間が掛かる
4-1. 実証（既存システムAPI連携） 対象地域内における食品関係者が有する既存の情報システムを活用し、上記の共通API及びデータ標準化ガイドラインを用いたデータの共有を実施	課題1-2	食品の品目・量に応じて受け入れ先と個別に連絡・調整する負担	課題1-3	食品の適切な管理に手間が掛かる
	課題1-4	社内の情報の出力、個別の物流コスト等の負担	課題2-2	寄附事業者と個別に連絡・調整する負担
4-2. 実証（新規システム） 民間のクラウドサービスを導入し寄附事業者、フードバンク、支援組織間において食品寄附関連の情報を連携するプラットフォームを構築	課題2-3	食品の適切な管理・報告に手間が掛かる	課題2-4	物流や倉庫等のキャパシティの限界による受け入れ困難
	課題3-2	寄附事業者やバックラインと個別に連絡・調整する負担	課題3-3	食品の適切な管理・報告に手間が掛かる
	課題3-4	物流や冷蔵設備等のキャパシティの限界による受け入れ困難		

© 2024 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

NTT data